



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(14) ニチリンクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(14) ニチリンクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-04-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180147>

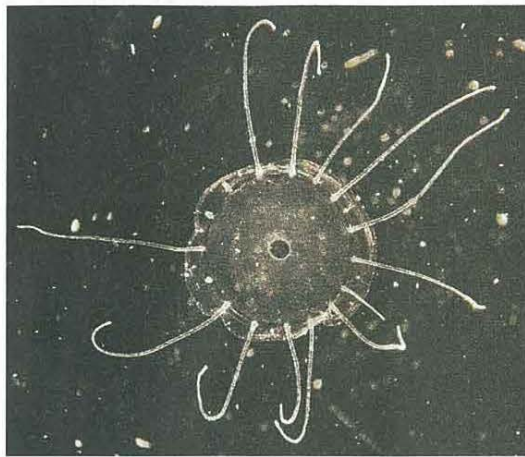
RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)4月7日 木曜日 第20558号 (12)

ニチリンクラゲ



△
太陽が放射するよ
うに触手を伸ばす
ニチリンクラゲ

ゲ形の種類に見
は、通常のクラ
わ)クラゲ類で
は、通常のクラ
ゲ形の種類に見

べているはずで
ある。不思議な
ことに、ニチリ
ンクラゲなどが
所属する剛(こ
わ)クラゲ類で
は、通常のクラ
ゲ形の種類に見
られる口柄が、傘の中央から
垂れ下がっていないのが特徴
である。
透明な傘は、実際にはやや
内側に少しくぼんだ小皿状で
ある。傘の縁にそって膜が張
られている。浅いくぼみの内
側から海水を吐き出して力強
く拍動しながら遊泳する。
この個体はまだ若く、傘の
直径が3・7ミリしかないが、成
長すると10ミリほどに達する。
この個体は瀬戸漁港で丁寧に
すくいとってすぐ観察したの
で少ししか傷んでいない。通
常、プランクトンネットをひ
いて捕獲すると、すべての触
手はなくなり、丸い円盤のよ
うな姿で見つかる。
剛クラゲ類の不思議な生活
史がある程度分かっており、
全種が海底で付着生活を送る
ポリプの世代がないのも大事
な特徴である。さらに、多く
の種は受精卵からクラゲへ成
長していく際、幼体が他のク
ラゲ類に寄生することも確認
されている。

(京都大学准教授)

久保田 信

14



名前が示すように、丸い傘
の縁から太陽が放射するよう
に触手が伸びるニチリンクラ
ゲ。本来の生息場所は太平洋

の外洋であるが、吹き寄せな
どにより田辺湾やその周辺で
採取できることがある。
体の中央に丸く開いている
のが口である。もっと大きく
広げることができるのだが、
写真はちよつとだけ開いた状
態である。口の周りの薄ぼん
やりと不透明な部分が、傘の
縁まで達する胃袋である。こ
の胃袋に獲物が入っているの
はプランクトン採集で入手し
た個体で見たことはないが、
野外で何かの餌を捕らえて食